

「I 類講義演習に関する担当者の意見交換」

井上 淳 2002 年 4 月 12 日

e-mail1:

井上先生 先ほど、教室会議の前後にお話しを伺いました、演習中の小テストの扱いですが、あの後、三町先生とたまたまそれについて、話す機会がありました。三町先生によりますと、『小テストは毎回実施する。小テスト中は学生は廻りのものに聞くことはできない。自力で解く。これが、共通認識のはず。』と、おっしゃっていました。私に勘違いがあったかもしれませんが、ということは、小テストの問題と、レポートにまわす問題は、はっきりと分けて置いたほうが良いのではないのでしょうか。僭越ながら、線形代数の方で用意しました問題を、先生のメールボックスに入れさせて頂きました。もし、少しでもご参考にしていただける点があれば、幸いです。田辺正晴

e-mail2:

井上 淳 様、三町 勝久 様、

私が担当する「線形代数学第一」M 組向けのページを作りました。まだ校正段階なのでホームページからのリンクは張っていませんが、

<http://www.is.titech.ac.jp/sadayosi/course/linear2002.html>

でご覧頂けます。ご意見を頂ければ幸いです。

ところで昨日担当者 4 名と打ち合せをしたところ、月曜日の話しについて私が誤解していた点があるようなので、いくつか確認致します。

演習の時間を有効に活かしたい、というご意見は理解しました。さらに演習の時間は黒板を使わずに教官が作る問題を各自取り組んでもらい、その週の課題としてレポートとして提出するという案ですが、そうでなければいけないということだったのでしょうか？

ウェブページをご覧頂くと分かりますが、私の現時点のプランでは隔週に宿題を出し、演習の時間は、黒板の利用云々は担当者にお任せするとして「学生が問題の解き方を相互学習する」ことに使って頂きたいと考えています。このプランのあらまは昨年度の経験として月曜日にお話したつもりです。学生の強いられる勉強量は多分私の方が多いため、井上さん、三町さんの主旨には反していないと思いますが、これで問題がある場合は早急にお知らせ下さい。

それから期末試験についてですが、水元さんから M, N 組共通にするというように伺いました。これも案ではなく確定ということでしょうか？

小島 定吉

e-mail3: 井上より関係者各位へ

システムを新しくする時には、「みずほ」でなくとも混乱が起こるようです。

先日 4 月 9 日？に 3 時頃から 3 時間程、三町先生の音頭で

井口、永幡、佐藤？、(大沢君参考意見陳述)、三町(時々欠席)、井上、小島(後半に参加)

で色々話し合いました。問題として認識している事は、

- (い) 演習がその機能を果たしていないのでは？
- (ろ) 教務補佐員、TA の役割はそれぞれ何か？
- (は) 講義と演習の単位が別々なのはまずいのでは？

でした。外的状況として、

(i) 教務補佐員がついた事についての詳しいレポートしなければならない(去年度の試行の詳しいレポートは?)

(ii) 去年後学期の授業評価アンケートを見る限り、どうも数学と言う教科に関する復習、予習時間が極めて少ないのは問題なのでは?

(iii) 黒板に出て問題を解き説明してもらいそれを訂正、説明するという方針は機能しないと考えるべきでは?

と解釈しております。

私の認識では話し合った事は(といっても色々e-mailsをみたり考えたりした後で少しずつ変形しているかもしれませんが)以下になります。

(a) 講義に関しては、各講義後に講義内容の概略をホームページに書く。また、例えば office-hour を設けても訪れにくいようなので、まず e-mail address を公開しそこに質問、相談等を送ってもらうことから始める。

(b) 演習問題を講義担当者が用意する。その場で解いてもらうもの(これの“採点”等は TA に)と、レポートとして後に回収しそれを教務補佐員にコメントし“採点”してもらう。演習については試験をしてもらいそれを採点する。全体的に見て30点満点で採点結果を講義担当者に渡してもらう。

(c) 中間試験20点、期末試験50点、演習30点として講義、演習ともに同じ点をつける。

(d) 私は前から何度も、試験も教科書も全くバラバラでは、比較しようが無い。比較しない限り、自分の位置は認識できない事が多いのでは、と云ってきました。そこで、今回の M,N 組の微積分に関しては、例えば4題中2題は共通で出題してみようと井口君と同意したのです。あの時点では線形代数について言及したり何かが決まったとは認識していません。教科書については、幾分個人的な理由でもありますが、各自の好みで良いのでは?

註:(b)の具体的なやり方ですが、少なくとも私は「こうしろ、ああしろ」と人に言う事もあまり言われる事も好まない方です。また、あまり「こうしろ、ああしろ」というと、それをしているかどうか監視をするという操作が入らないと「この芝生入るべからず、雀さん」という滑稽な立て札になってしまうのでは。

小島先生の「隔週に宿題を出し、演習の時間は、黒板の利用云々は担当者にお任せするとして「学生が問題の解き方を相互学習する」ことに使って頂きたい」というので始めたらどうでしょうか?

但し、私は毎週宿題としてのレポートがあってもよいぐらいに考えていました。あまり突然きつくして誰もやらなくなったでは仕方が無いので、どの程度が学生諸君のやる気を引き出す最適な量なのか、ぼちぼちやりながら考えればよい。さしあたりどうするかは、来週授業をし演習問題を考え、田辺君と話し合いたいと思います。

(c) についてですが、中間試験は易しく15点ぐらいはとれるように、期末試験は少々難しく平均点が20点ぐらい、だから演習の試験では20点ぐらいはとれるような問題を。現時点での雑な想定です。

(e) 私は試験時に必ず学生の意見を聞くようにしています。それはすべて記名(「言葉には責任をもて」悪口は記名で、誉める時は匿名で)ですから、本音を書いて貰える状況にするためには時間がかかります。彼等は内申書で脅かされてきた可能性がありますから、「悪口を言ったら悪く採点される」と思っているでしょうから、本音で悪口を書いて、それが成績には影響しなかったと認めてもらうには時間がかかるからです。過去において、私は感想を書いた人で55点止まりの人は私の講義を良くするための協力として5点程を加えるようにしました。これは、裁量の内だと今年度も採用するつもりですが、何かご異議があり納得すればその意見に従います。